挨　拶

愛知大学人文社会学研究所所長
宇佐美一博

2015 年 4 月に愛知大学人文社会学研究所が設立され 4 年がたちました。その間、本研究所の目的である基礎研究に焦点を当てながら、人文科学と社会科学、及び双方にわたる所謂学際域に関する高度な研究及び発表を行ってきました。その成果は、文学論叢、プロジェクト・研究会やシンポジウム・ワークショップ等の報告書という目に見える形となって公表され、知的財産として蓄積されつつあります。

しかし、世界中の国々は国際化に伴ってますます多文化社会になりつつあり、根源的かつ普遍的な問題はさらに複雑に錯綜し、それぞれの分野で多面的に新しい知の在り処を探求する必要に迫られています。また分野を超えた学際的な研究もその重要性を増しています。異文化共生の問題、自由・民主主義・人権を求める問題、貧富の格差拡大の問題など、世界各地で新たに生じつつある諸問題を解決するには、「故きを温めて」、これまでの研究成果を受け継ぎ、「新しきを知る」、そこから新たな解決の糸口を見出し、そして未来に対して「遠き慮り（＝ヴィジョン）」を持って、所員各自がそれぞれの研究を「孜孜（＝ハードワーク）」として続けていく以外に方法はないと考えます。

世界は、「ベルリンの壁」が崩壊してちょうど 30 年になります。しかし、世界がグローバル化して一体化していく一方で、保護主義が擡頭し、香港、スペインなど世界各地で反乱、抵抗運動、示威運動が起きて「新しい壁」ができつつあります。このような歴史の間断なき流れの中で、ナショナル・ヒストリーを超克し、21 世紀にふさわしい新しい歴史学の実践をめざす今回のシンポジウム「ヨーロッパ前近代の複合国家」は、基礎研究としてまことに時宜を得た意義のあるものと

いえます。このシンポジウムは本研究所主催で開催された過去2回のシンポジウムの問題意識を継承して開かれたものであり、世界の今後の動向を見定め、着実な研究を進める一歩になると確信しています。それゆえここに報告書を公刊し、多くの方々に手にとって読んでいただくことを切望する次第です。